

博物館

Museum News

ニュース

徳島県立博物館
No. 130
2023年3月25日発行

若杉山遺跡の
出土石器が
重要文化財に!!



きかてん
企画展

朱^{しゆ}を求めて

徳島県若杉山辰砂採掘遺跡出土石器（当館蔵）

「朱」をつくるための石器で、辰砂鉱石を採掘したり、磨りつぶしたりするときに使われました。

わかすぎ やましんしゃ さいくつ いせき 若杉山辰砂採掘遺跡からみる 徳島の弥生時代

文部科学省に設置されている^{ぶんかしんぎかい}文化審議会が令和4年におこなった文部科学大臣への答申により、当館が所蔵する若杉山遺跡（阿南市）出土の辰砂採掘用石器の一部が重要文化財に指定されることになりました。

令和5年度企画展「朱を求めてー若杉山辰砂採掘遺跡からみる徳島の弥生時代ー」（会期：令和5年4月22日（土）～5月28日（日））では、重要文化財に指定される「徳島県若杉山辰砂採掘遺跡出土石器」を起点に、徳島の弥生時代について紹介します。

（考古担当：植地岳彦）

死滅漂着植物を探す

—浜辺で芽生えをみつける楽しみ—

茨木 靖

浜辺には世界各地から色々なものが流れつきます。そんな浜辺で拾えるものの代表とえば、やはりヤシの実でしょう。遠い南の国から流れて来たのかと思うと、とても不思議な気がします。流れてくる実には、他にもアダンやモモタマナ(図1)などいろいろなものがある、たどり着いたところで芽を出すので“海流散布植物”と呼ばれます。

浜辺でいろいろな種子を拾う

私は、浜辺に流れつく異国の木の実が好きで拾い集めてきました。ココヤシ、オニガシ、ゴバンノアシ、オムファレアなど四国では見られない珍しいものばかり。調べていくうちにどのようなものが流れてきているのか、だんだんとわかるようになってきました(茨木 2003, 茨木・池淵 2004, 濱・茨木 2012, 濱ら 2013)。

とは言ってもわかったのは、浜辺に落ちていれば一目でわかる“大きなもの”ばかり。きっと小さな種子は見逃しているに違いありません。そこで、浜辺の種子を砂もろとも篩ふるいにかけて調べることになりました。まだまだわからない種子も多いの



図1 漂着したモモタマナの実

ですが、これで一応調べる方法はわかりました(米田ら 2013: 図2)。

そんなある日、西表島いりおもてしまで見慣れない木の実を拾いました。名前もわからずそのままにして、忘れてしまっていたのですが、図鑑を見ていてハッとしました。そっくりな図が載っていたのです。それは、東南アジアに生えるカンラン科の樹木の实だったので、日本では初めて見つかったものなので、“オニカンラン”と名付けました(茨木ら 2021)。



図2 小さな種子を調べる様子

徳島には南の生き物が
たくさん来ているんだね。



拾った種子は生きているのか？

こうして漂着種子について色々調べてきましたが、ずっと疑問だったことがあります。それは、“拾った種子は生きているのか”ということです。もしも死んでしまっているのならば、たとえ流れついても芽が出ないので分布を広げる役には立ちません。そこで、拾った種子を植えてみました。植えたのはヒメモダマという沖縄県より南の島々にはえるマメ科の植物です。植えてからしばらくすると、うれしいことに芽が出てきました。この実験から、徳島県に漂着する南方系種子も生きていることが確かめられました（茨木 2013）。

それでも疑問は残ります。人が植えなくても流れてきた種子は芽を出すことがあるのでしょうか？この様な話をしていたところ、知人が浜辺で発芽したゴバンノアシを持ってきてくれました（成田ら 2012）。続いて、モモタマナやタイワンモダマも発芽しているものが見つかりました（茨木・中西 2020, 茨木ら 2022：図3, 4）。いずれも沖縄県より南の暖かい所でなければ育たないものばかりです。

これまで調べてきたところ、東南アジアやオセアニアなどの熱帯に生える植物の種子が徳島県まで流れつき、しばしば浜辺で発芽していることがわかりました。以前からグンバイヒルガオなど南方の植物が流れついていることは知られていましたが、思っていたよりも多くの植物が芽を出しているようです。

しかし、これらの芽生えは、寒さに弱く冬のうちにほとんど枯れてしまします。すると、これは一過性の重要ではないできごとということなのでしょうが？

徳島県の自然を彩る、南からやってくる生き物たち

海の中を見ると、死滅回遊魚しめつかいゆうぎょと呼ばれる魚たちがいます。南方生まれの、色とりどりの熱帯魚たちは夏の間に黒潮に乗って徳島県までやってきます。そして冬場水温が下がると死んでしまうのです。これが死滅回遊魚です。最近ではナンヨウボウズハゼやホシイッセンヨウジなど、これまで知られていた以上に、多くの南方系の魚たちが徳島県にもやってきていることがわかってきました（井藤ら 2021, 井藤ら 2023）。これは漂着種子の芽生えと似ていると言えます。また、徳島県には、カツオやカモなどがやってきます。これらは、県内を通り過ぎるだけかもしれませんが、私たちの暮



図3 浜辺で芽を出していたモモタマナ

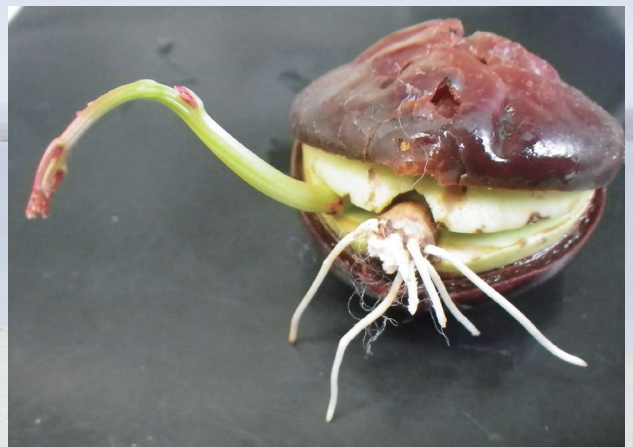


図4 浜辺で芽を出していたタイワンモダマ

らしや文化の中にも、しっかりとその存在が根付いています。また、徳島県の気温がもう少し高くなった場合、南方からやってくる植物が冬を越すようになる可能性もあります。そのような意味で、南からやってくるこれらの生き物たちの存在は、徳島県の自然を考える上で重要なのかも知れません。

ゴバンノアシやモモタマナなど、“死滅漂着植物しめつひょうちやくしょくぶつ”を探するのは楽しい遊びです。名も知れぬ遠い島から流れて来て、今ここに芽を出している見たことも無い植物に巡りあう喜びは、まさに“宝探し”の気分です。皆さんも海岸に行ったら珍しい芽生えを探してみてもはいかがでしょうか？

(植物担当)

<引用文献>

- 濱直大・茨木靖(2012) 徳島県立博物館研究報告, (22):17-26.
- 濱直大ら(2013) 徳島県立博物館研究報告, (23):119-121.
- 茨木靖(2003) 漂着物学会会報, (6):1-4.
- 茨木靖(2013) 徳島県立博物館研究報告, (23):131-132.
- 茨木靖・池淵正明(2004) 漂着物学会会報, (12):6.
- 茨木靖・中西弘樹(2020) 漂着物学会誌, 18:27-28.
- 茨木靖ら(2021) 漂着物学会誌, 19:23-24.
- 茨木靖ら(2022) 漂着物学会誌, 20:39.
- 井藤大樹ら(2021) Ichthy. Natural History of Fishes of Japan, 15:10-16.
- 井藤大樹ら(2023) 魚類学雑誌 (DOI: 10.11369/jji.22-029).
- 成田愛治ら(2012) 漂着物学会誌, 10:33-34.
- 米田稀美ら(2013) 徳島県立博物館研究報告, (23):113-117.

令和5年度
企画展

朱しゆを求めて

— 若杉山辰砂採掘遺跡からみる徳島の弥生時代 —

朱は墳墓や祭祀で必要とされた赤い粉末で、特に硫化水銀からなる水銀朱は、祭祀などにおける重要な場面に用いられた貴重品でした。国の史跡である若杉山辰砂採掘遺跡（阿南市）は、弥生時代後期から古墳時代前期に、水銀朱の原料となる辰砂を採掘した遺跡で、当館が所蔵する出土品の一部は重要文化財に指定されることになりました。

今回の展示では、若杉山辰砂採掘遺跡やその出土遺物を起点として、水銀朱の生産に関連する遺物が出土した遺跡に触れながら、当時の徳島の様子を確認していきます。さらに、弥生時代前期・中期や縄文時代における水銀朱の扱われ方と比較し、朱が求められた理由を探っていきます。

【会期】

令和5年4月22日(土)～
5月28日(日)

【開館時間】9:30～17:00

【会場】博物館1階 企画展示室

【休館日】月曜日

【観覧料】一般200円、高校・大学生100円、
小・中学生50円

20名以上の団体は2割引/高校生以下は、土・日・祝日・
振替休日は無料/高齢者(65歳以上)は半額/身体障
害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所有
者とその介助者1名は無料/学校教育による利用は無料



若杉山辰砂採掘遺跡から出土した遺物

展示構成

- 1 若杉山辰砂採掘遺跡の今
- 2 赤い資料
- 3 若杉山時代の徳島
- 4 水銀朱と鉄・玉
- 5 水銀朱とねがい・墓・まつり
- 6 若杉山時代以前の徳島

展示解説

日時：令和5年4月23日(日)
5月5日(金・祝日)
5月28日(日)

いずれも13:30～14:30

会場：徳島県立博物館1階 企画展示室

※申し込みは不要。企画展観覧料が必要です。



くぼみのある石臼いしうす



辰砂を磨りつづすための石杵いしぎね



蛇紋岩製の勾玉じゃもんがん まがたま

おふだ から かつての パワースポットを探索?!

徳島県内には、江戸時代からの古いおふだがまとめて保存されている例があることは、令和3年度の企画展「徳島おふだコレクション～はらいたまえ きよめたまえ～」で紹介させていただきました。けれども、どこの誰が発給したか調べきれないおふだが、まだたくさん残されています。機会あるごとに詳細不明なおふだを調べていますが、最近、新しい情報を確認することができたのでここで紹介します。

徳島市名東町の元庄屋の家に残されたおふだの中に、「岩船神」と記されたものが3種類ありました(図1)。あまり聞かない神名なのでどこにまつられている神様なのかと、まず徳島県内の神社を調べてみました。勝浦町に「岩船神社」がありました。祭神は「日本武命」、由緒を見ると「悪病除の靈験高く毎年八月一日悪病除祈願祭に参詣者多し」と記されています。おふだにも「岩船神日本武命流病退散守護祈処」の文字があり、岩船神のおふだは、この神社が発給していたと考えられます。ただ、現在は岩船神社の名前やそのまつりの評判を聞きませんし、数年前に現地に行った時にはとてもひっそりとしていましたので(図2)、わざわざ徳島市内から参詣に行っておふだを受けるほどの神社だったのか半信半疑でした。

その後しばらくして『神領村誌』を読んでいた時、慰安・娯楽、参詣の節に「岩舟さん」の記事があり、「作物を病虫害から守る神として、特に水稻の豊穰を祈りまた悪病除けのために昔から参詣に行く人が多かったが、最近はあまり行かない」とあるのに気付きました。これで、勝浦町の岩船神社は、かつては離れた場所からでも参詣に行く神社だったのだと納得できました。

再度、岩船神社に足を運んでみると、勝浦発電所近くの道路から神社へ上がって行く道の登り口に丁石が残っていることを発見しました(図3)。多くの方が岩船神社に参詣に来ていた痕跡です。

かつての信仰の状況は、その習わしが廃れてしまうと忘れ去られてしまいます。古いおふだには、人びとの信仰をあつめ、靈験あらたかとされていたかつてのパワースポットの情報が詰まっていると思います。順次調べ続け、その成果を次の展示

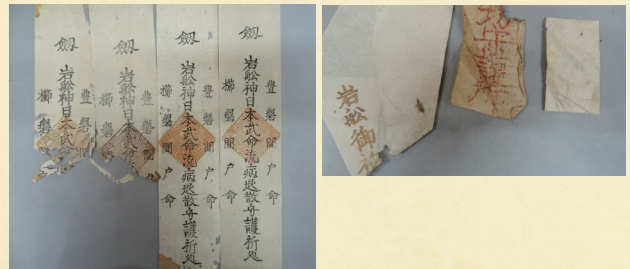
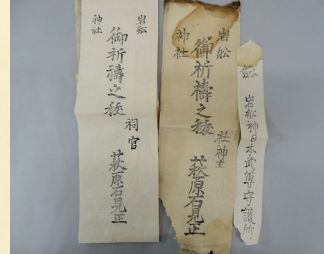


図1 「岩船神」と記されたおふだ3種



図2 岩船神社(勝浦町棚野口立川)



図3 丁石
「岩船大神」の下に「左へ」「五丁」と記されています。

につなげたいと考えています。

(民俗担当：庄武憲子)

<参考文献>

徳島県神社庁教化委員会 1981年 『徳島県神社誌』
名西郡神領村誌編集委員会 1960年 『神領村誌』

イズモユキノアシタ

高知県安田町唐浜（図1）に分布する新第三紀鮮新世の地層（唐ノ浜層群穴内層）から、イズモユキノアシタ（イズモノアシタガイ）*Cultellus izumoensis*という二枚貝化石の産出を確認し、当館の研究報告で他の貝化石と併せて報告しました。ここでは、この貝について解説します。

イズモユキノアシタは絶滅種で、マテガイ類に似た、横に細長い形の二枚貝です（図2）。新生代古第三紀漸新世後期（約3000万年前）の北九州周辺の地層から産出する化石が最古記録で、新生代新第三紀中新世（約2300万年前～500万年前）に東北地方や北海道まで分布を広げ、各地で多産します。その後の鮮新世（約500万年前～258万年前）の地層からは、神奈川県や茨城県で報告があります。東京都の多摩丘陵に分布する第四紀更新世前期の地層（約130万年前）からは比

較的多産するようです。これがおそらく最後の化石記録となります。

当館は、本種と同定できる穴内層産の化石を4点収蔵しています。うち1点は詳しい産出場所は不明ですが、残り3点は、1990年代から2010年頃に行われた農道敷設工事に伴って産出したと考えられる個体です。うち産出層準が明確な1個体は、鮮新世最末期（約260万年前）の層準から産出しました（図3）。

化石が産出する場所・時代を調べていくことで、その分布の移り変わりを追うことができます。イズモユキノアシタは、漸新世後期に現れ、中新世に繁栄し分布を広げ、鮮新世には生息域や個体数を減らして高知県や関東地方で生き残り、130万年前の関東地方で一時的・局地的に繁栄し、その後すぐに絶滅したようです。

（地学担当：中尾賢一）



図1 化石産地の位置（地理院地図に加筆）

<引用文献>

三本健二・中尾賢一. 2023. 高知県の鮮新-更新統唐ノ浜層群穴内層から新たに確認された貝類 (10), 徳島県立博物館研究報告, (33).



図2 穴内層産イズモユキノアシタ



図3 イズモユキノアシタ化石の産状（図2と同じ個体）

なぜ日本から恐竜化石は 見つかりにくいのですか？

日本の恐竜化石は、近年では全国各地から見つけられ、新しい成果が毎年報じられています。大きく進歩してきている日本の恐竜研究ですが、まだその産地は限られ、恐竜化石の発見は簡単なことではありません。

まず、化石自体が地面を掘ればすぐ見つかるものではありません。地球の表面を覆う岩石には、マグマが冷え固まった火成岩、泥や砂などの堆積物が固まった堆積岩、そしてそれらが熱・圧力の影響で変化した変成岩があります。化石は、生き物の遺骸や痕跡が堆積岩の中に残されたものであり、火成岩や変成岩を探しても化石は見つかりません。さらに、化石を見つけるには、その生き物が生きていた時代・環境で作られた地層を探する必要があります。恐竜化石の場合は、中生代の陸地で堆積した地層（まれに海の地層）に含まれ、この時点で産地は限られます（図1）。

そして、日本において化石が見つかりにくい原因となっているのが、地層の露出が少ないということです。日本列島の地形は起伏に富み、その面積のほとんどを山地が占めています。さらに地表は豊かな植生に覆われ、岩肌を直に観察できる場所は限られます（図2）。海外の有名な恐竜化石産地は多くが草木の生えない地域であり、それらと比べると日本の産地は地層の露出が圧倒的に少ないのです。

これは見つけにくいというだけで、化石が出ないということではありません。研究者やアマチュアの人たちによる入念な調査によって、日本の恐竜化石は発見されてきました。これからもさらに多くの場所で、新たな発見が続いていくかもしれません。

（地学担当：小布施彰太）



図1 日本に分布する中生代の堆積岩（灰色）と恐竜の骨化石産地（赤点）（柴田ほか，2017を一部改変）



図2 徳島県勝浦町の恐竜化石産地

<引用文献>

柴田正輝・尤海魯・東洋一，2017. 日本の恐竜研究はどこまでできたのか？：東・東南アジアの前期白亜紀フォーナの比較。化石，101，23-41.

4月から6月までの博物館普及行事 あなたも参加してみませんか？

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象(定員)	備考
野外自然かんさつ	中級クラス植物観察会4月	4月22日(土)	10:00~17:00	要	小学生から一般(10)	弁当・水筒持参 乳幼児連れも参加可能
	初めての植物かんさつ(春編)★	4月23日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般(30)	同日開催「ゼロから始める植物学」 乳幼児連れも参加可能
	川魚かんさつ初夏編★	5月21日(日)	10:00~12:00	要	小学生から一般(20)	徳島市・圃瀬川
	花巡り！植物かんさつハイキング5月 ～風薫る季節を体感～	5月 7日(日)	10:30~17:00	要	小学生から一般(30)	弁当・水筒持参 阿南市蒲生田岬周辺
	中級クラス植物観察会6月	6月18日(日)	10:00~17:00	要	小学生から一般(10)	弁当・水筒持参 乳幼児連れも参加可能
	初めての植物かんさつ(梅雨期編)★	6月 4日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般(30)	同日開催「ゼロから始める植物学」 乳幼児連れも参加可能
たのしい 地学体験教室	恐竜化石を探そう！ 4月	4月22日(土)	13:30~15:30	要	小学生から一般(15)	恐竜やカメなどの脊椎動物化石が発見された 場合は、博物館への寄贈になります。
	化石をかんさつしてみよう	6月18日(日)	13:30~15:00	要	小学生から一般(15)	
歴史散歩	伊島歴史散歩	5月14日(日)	8:15~16:30	要	小学生から一般(15)	阿南市伊島
古文書で学ぶ 歴史入門	ゼロからの古文書①～③	5月20日(土)	13:30~15:00	要	一般(15)	(①～③セット) 申込みは、 5月8日(月)まで
		6月17日(土)				
		7月15日(土)				
ミュージアム トーク	ゼロから始める植物学～植物用語編～	4月23日(日)	10:30~12:00	要	小学生から一般(30)	同日開催「初めての植物かんさつ」
	ゼロから始める植物学～名前の調べ方編～	6月 4日(日)	10:30~12:00	要	小学生から一般(30)	同日開催「初めての植物かんさつ」
海部自然・文化セミナー	旅日記から読み解く四国遍路	6月 4日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(20)	会場：海南文化館
企画展関連行事	企画展「朱を求めて～若杉山辰砂 採掘遺跡からみる徳島の弥生時代～」 展示解説	4月23日(日)	13:30~14:30	不要	小学生から一般	企画展観覧料必要
		5月 5日(金・祝)				
		5月28日(日)				
コレクションセクション 関連行事	歴史・文化コレクション 「半田 敷地屋本家大久保家の漆器」展示解説	4月16日(日)	13:30~14:00	不要	小学生から一般	常設展観覧料必要
		5月 5日(金・祝)				
	歴史・文化コレクション 「空海と弘法大師信仰」展示解説	6月18日(日)	13:30~14:30	不要	小学生から一般	祝日無料 常設展観覧料必要
博物館スペシャル	文化の森こどもの日フェスティバル	5月 5日(金・祝)	9:30~16:00	不要	—	祝日無料

◎★印の行事は「チャレンジ自由研究」対応行事です。 ◎小学生が参加する場合は保護者同伴です。 ◎全ての行事が「文化の森教室」に該当します。

普及行事の お申し込みについて

開催予定日の**1か月前から12日前必着**でお申し込みください。
参加希望者が定員を超過する場合は抽選とし、結果は全員にお知らせします。また、行事の詳細は、当選者にご案内します。
原則として、参加費は無料ですが、材料費をいただくことがあります。

●往復はがきでの お申し込み

1枚の往復はがきで、
1行事のみ申し込む
ことができます。
右図のように記入し、
お申し込みください。

往復はがきの記入例			
< 往信の表面 >	< 返信の裏面 >	< 返信の表面 >	< 往信の裏面 >
63 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館	何も書かないで ください	63 〒〇〇〇〇〇〇〇〇 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1. 参加希望の 行事名 2. 参加希望者 全員の氏名 (学年・年齢) 3. 住所 4. 電話番号 (またはFAX番号)

●「行事申込フォーム」でのお申し込み

スマートフォン、タブレット等で
QRコードを読み込み、アクセスして
ください。お申し込み後に受付メ
ールが自動返信されます。返信がない
場合は、電話(088-668-3636) また
は、FAX(088-668-7197) でお問
い合わせください。



※提供いただいた個人情報は、お申し込みのあった
行事についてのみ使用します。

学校教育に博物館を！

徳島県立博物館のもつ資源(もの・情報・人)を、学校
教育の場で有効に活用していただきたいと考えています。

- 遠足
- 博物館資料の貸し出し
- 館内授業(博物館で)
- 教材研究のお手伝い
- 出前授業(学校で)

・学習内容に関する質問や
実験・観察の方法など、何
でもお気軽におたずねく
ださい。動物、植物、地学
考古、歴史、民俗、美術
工芸の各専門分野の学
芸員がご相談に応じます。
お気軽にお電話ください。



火おこし(出前授業・館内授業)

特典がいっぱい!! 徳島県立博物館友の会

博物館友の会は、年間を通してさまざまな体験活動を行い、
自然や歴史・文化について、楽しく学んでいます。

個人でも、ご家族でも、ご入会いただけます。みなさんも参
加してみませんか。

- 年会費
 - ・個人会員2,000円
 - ・家族会員3,000円
 (10月以降にご入会の場合、会費は
それぞれ半額となります。)

■会員の特典

- ・友の会行事に参加できます。
 - ・友の会の出版物やミュージアムショップの商品を、1割引で購入することができます。
 - ・催し物案内や博物館ニュース、会報などが、毎月お手元に届きます。
- 詳しくは、友の会事務局まで(電話088-668-3636)



化石をさがそう!

お問い合わせは、徳島県立博物館まで(電話 088-668-3636 FAX 088-668-7197)